

事業番号	277
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	小松寺土地区画整理事業特別会計繰出金					担当部	都市建設部			
	会計区分	一般会計			事業類型	施設整備系	担当課	区画整理課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成27年度		担当係	庶務係		
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤	22 市街地整備	2 土地区画整理事業を推進する						
		副目的	22-3	22-4							
	予算区分	款	2	項	1	目	1	大	2	中	1
	根拠法令・個別計画	土地区画整理法、尾張都市計画事業小牧小松寺区画整理事業計画									
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	一般会計より小松寺土地区画整理事業特別会計に繰出金として予算措置をし、区画整理区域内の土地権利者及び周辺住民のため、公共施設の整備改善及び宅地の利用増進を図り、健全な市街地を整備する。									
	内容 (手段)	<p>◆平成24年度実施内容 繰出金を活用し、実施した事業は以下のとおりである。 土地区画整理法に基づき、都市計画道路及び区画道路を配置・整備する。また、公園、緑地及び調整池等も一体的に整備する。 平成24年度は、補償交渉が難航している補償相手と継続的に折衝を行った。</p> <p>【繰出金の算出規準】 ・H24決算額＝127,766,632(歳入決算額)－35,863,000(県支出金)－6,362,632(繰越金等) ・H25予算額＝237,831千円(歳出予算額)－1,061千円(繰越金等)</p>									
	受益者負担	無									

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	99,542	81,834	85,541	236,770	
	正職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00	
		人件費	千円	0	0	0	0	
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計		千円	99,542	81,834	85,541	236,770	
対前年比		%		82.2	104.5	276.7		
財源	一般財源	千円	99,542	81,834	85,541	236,770		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	道路整備延長(単年)	m	目標	0	40	30
実績				0	0	31	
業	建物補償件数(単年)	件	目標	0	0	1	2
			実績	0	0	1	
績	成果指標名	単位	目標				
			実績				
業	道路整備延長(累計)	m	目標	13566.5	13606.5	13597.5	13827.5
			実績	13566.5	13567.0	13597.5	
績			目標				
			実績				

事業の自己評価	平成24年度の実施結果		
	事業の達成状況	平成24年度は、補償交渉が難航している補償相手と継続的に交渉を進め、残り3件のうち1件について契約することができた。 結果、事業計画上の道路整備延長14,465.5mに対して平成24年度末の道路整備率は、13597.5m(約94%)である。	
	事業実施における課題	駅周辺の住環境に優れた市街地でありながら、緊急車両が進入できないような狭隘道路の問題や生活道路が未整備ということで、地元住民に不利益を与える可能性がある。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	道路、公園等の公共施設と宅地整備を総合的に行う区画整理事業が事業途中で廃止・休止となった場合、これまでに土地利用を制限してきたことや、その他不利益を地区内権利者に与えることになるため損害賠償が想定される。また、都市計画法、土地区画整理法に基づいて決定された、都市計画決定、仮換地指定、事業計画等の取消は、現実的に困難である。よって、事業の早期完了を目指し、安全安心なまちづくりのため土地区画整理事業を継続的に進めていく必要がある。	
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等) 今年度についても、補償交渉が難航している2件の補償相手と継続的に交渉を進め、契約締結を目指す。	
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	今までどおり、補償交渉が難航している補償相手と粘り強く交渉を続ける必要がある。	
	26年度以降の改善案	小松寺地区は、進捗状況が約94%に達しているが、補償交渉が難航し、事業完了に至っていない。引き続き粘り強い交渉を継続し、事業の早期完了を目指していく。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。